

2月12日(金曜日)

ドル/円

手控えムードが広がる可能性も

11日(木)の主な推移

NYダウ平均

10144.19ドル
(+105.81ドル)

米長期金利
(10年債利回り)

3.7212%
(+0.0315%)

NY原油先物

75.28ドル
(+0.76ドル)

チャート: 30分足 11日(木)朝7時 ~ 12日(金)朝7時



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所: 外為どっとコム

- ① 9時30分に発表された豪1月雇用統計において、失業率は5.3%(前月:5.5%、市場予想:5.6%)、新規雇用者数5万2700人の増加(前月:3万5200人増、市場予想:1万5000人増)と、市場予想よりも大幅に良好な結果になったことから、豪ドル/円が上昇。これに連れてドル/円も小幅に上昇した。
- ② 夕方に円に対するポンドの仕掛け的な売りによってポンド/円が急落すると、ドル/円もそれに連れてストップロス巻き込みながら89.55円まで下落した。
- ③ 22時30分に発表された米新規失業保険申請件数が44万件と、市場予想(46万5000件)よりも強い結果となり、ドル/円はドル高・円安で反応したが、EU首脳会議後の記者会見にてギリシャ支援の具体的な内容が明らかにならなかった失望感からユーロに対して円が大幅に上昇したことを受けて、ドル/円の上値は限定された。
- ④ 米30年債入札は不調に終わり、米長期金利は上昇したが、ドル/円相場ではほとんど材料視されなかった。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加資金供給
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米経済の回復の鈍化
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・金融市場全体のドル売りムードの高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 88.10-90.40円

本日の東京時間中は材料が乏しいが、欧州時間に入るとドイツとユーロ圏の2009年第4四半期国内総生産(GDP)・速報値と、ユーロ圏12月鉱工業生産がそれぞれ発表される。いずれも前回値より弱い結果が予想されているが、市場予想よりも強い結果が出れば、ユーロ買い戻しの手掛かりとされてユーロ/円が上昇すると考えられる。そうなれば、ドル/円も連れて上昇する公算が大きく、注目したい。また、NY時間には米1月小売売上高と、2月シガン大消費者信頼感指数・速報値が発表される。これらは前回値よりも大幅に良好な結果が予想されており、併せて注目したい。

ただ、ギリシャ支援の具体策についての結論は来週に持ち越されている上、中国は来週から旧正月入り、米国も来週月曜は祝日と、積極的な取引を控える向きも多そうだ。ドル/円は経済指標結果などから方向感が出たとしても、値幅は限られる可能性がある。

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
2/12(金)	22:30	◎	(米) 1月小売売上高 [前月比]	-0.3%	+0.3%
	22:30	◎	(米) 1月小売売上高 [前月比: 除自動車]	-0.2%	+0.5%
	23:55	◎	(米) 2月シガン大消費者信頼感指数・速報値	74.4	75.0

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com